

## 大雪山の火山活動解説資料（令和4年9月）

札幌管区気象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

## ○活動概況

## ・噴気など表面現象の状況（図1-①、図2～10）

監視カメラによる観測では、旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の高さは火口上概ね100m以下で経過しており、噴気活動は低調な状態です。

8月30日に現地調査を実施しました。旭岳地獄谷爆裂火口では、前回の観測（2021年7月）と比べて噴気活動の状況に大きな変化はみられず、多くの噴気孔で噴気温度が100℃以上（I-8は200℃以上）の高温な状態が継続していました。

2日に国土交通省北海道開発局の協力により上空からの観測を実施しました。旭岳地獄谷爆裂火口は前回の観測（2022年8月、大雪山火山活動解説資料8月分に掲載）と比べて、噴気の状況や地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。御鉢平カルデラは前回の観測（2022年8月）と比べて地表面温度分布に特段の変化はなく、引き続き噴気は認められませんでした。

## ・地震及び微動の発生状況（図1-②）

火山性地震は少なく、地震活動は低調な状態です。  
火山性微動は観測されていません。

## ・地殻変動の状況（図11）

8月30日から9月2日に実施したGNSS繰り返し観測では、前回（2021年7月）と比べて有意な基線長変化は認められませんでした。

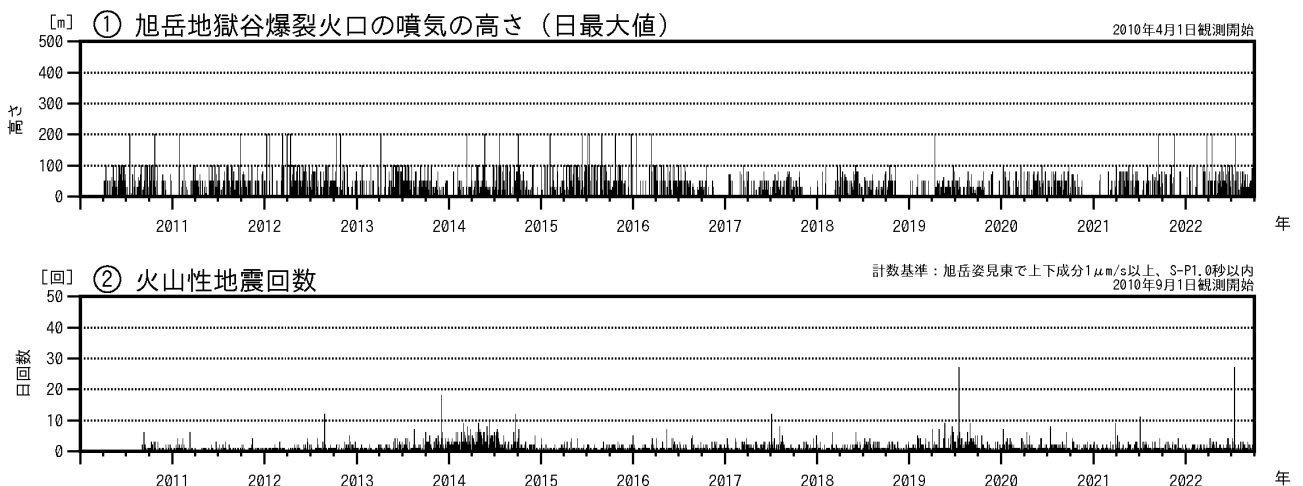


図1 大雪山 火山活動経過図（2010年4月～2022年9月）

この火山活動解説資料は気象庁のホームページでも閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』及び『電子地形図（タイル）』を使用しています。

次回の火山活動解説資料（令和4年10月分）は令和4年11月9日に発表する予定です。

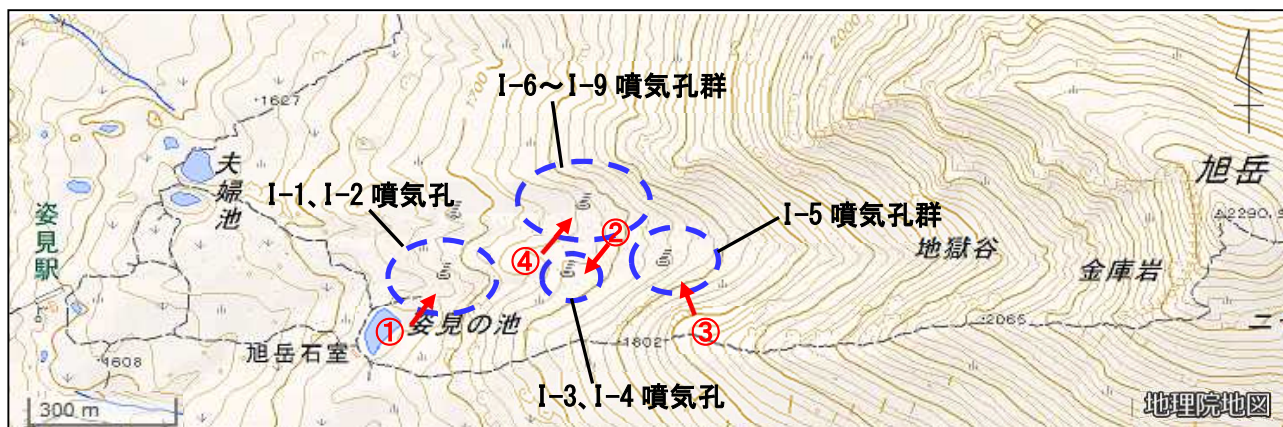


図2 大雪山 旭岳地獄谷爆裂火口内の噴気孔の位置（破線囲み）および写真の撮影方向（矢印）

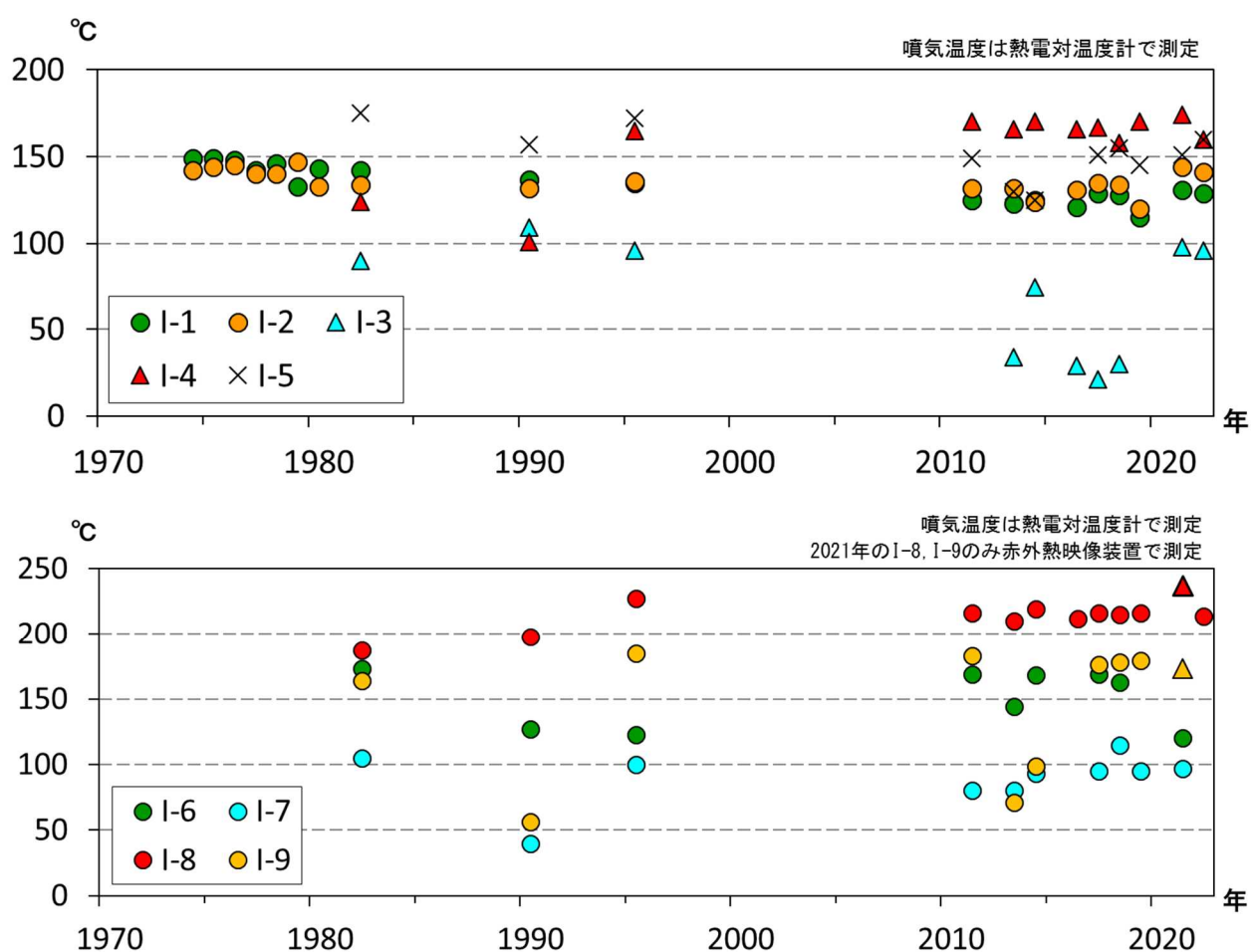


図3 大雪山 各噴気孔における噴気温度の推移（上段：I-1～I-5 下段：I-6～I-9）

各噴気孔の位置は図2を参照してください。

赤外熱映像装置で測定した噴気温度は、実際の噴気温度より低くなる可能性があります。



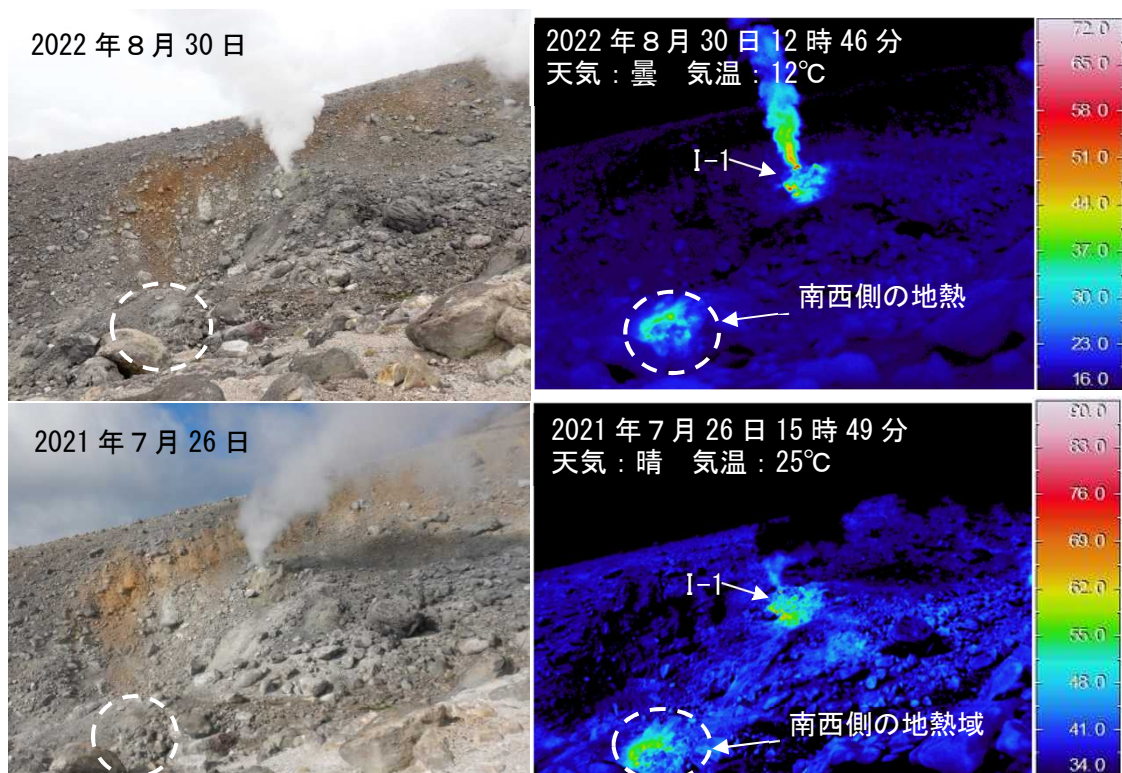


図4 大雪山 赤外熱映像装置によるI－1噴気孔の地表面温度分布 南西側（図2の①）から撮影  
・前回の観測（2021年7月）と比べて、噴気の勢いに特段の変化は認められませんでした。なお、前回の観測からみられたI－1噴気孔の南西側の地熱域（白破線内、1 m程度の拡がり）は今回も確認されました。

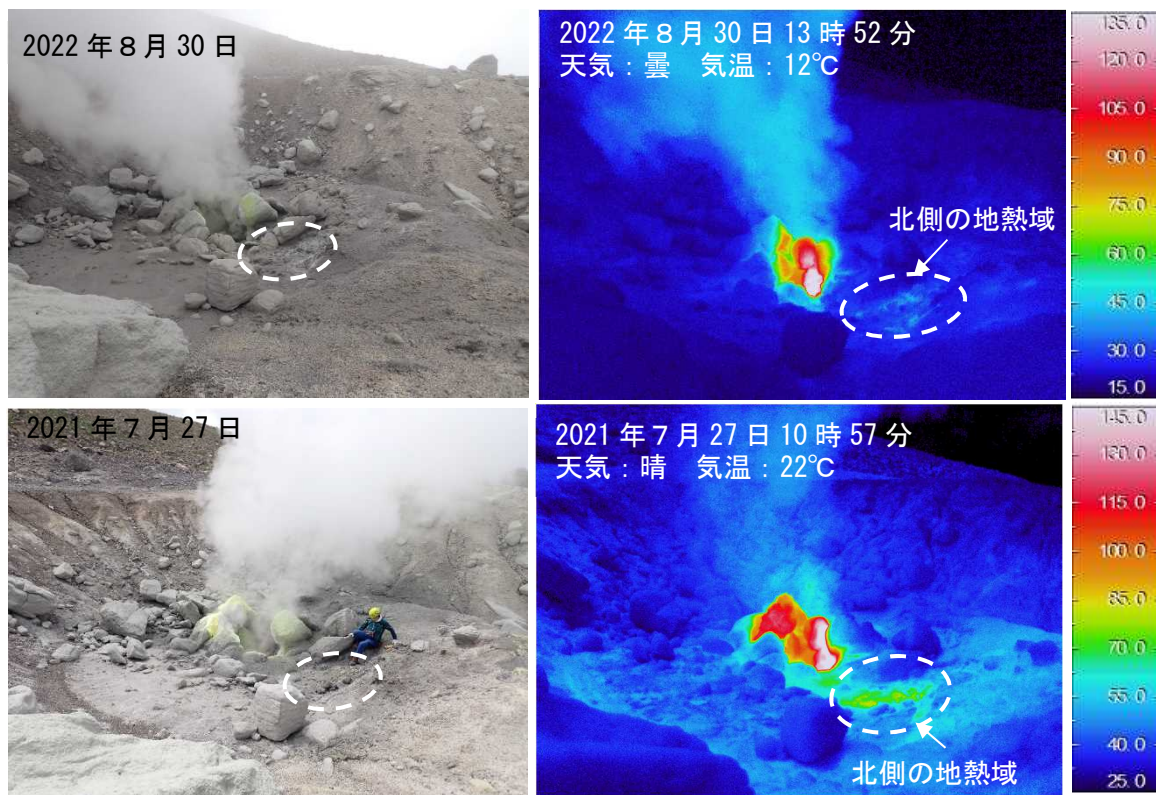


図5 大雪山 赤外熱映像装置によるI－4噴気孔の地表面温度分布 北東側（図2の②）から撮影  
・前回の観測（2021年7月）と比べて、噴気の勢いに特段の変化は認められませんでした。なお、前回の観測からみられたI－4噴気孔の北側の地熱域（白破線内、2 m程度の拡がり）は今回も確認されました。



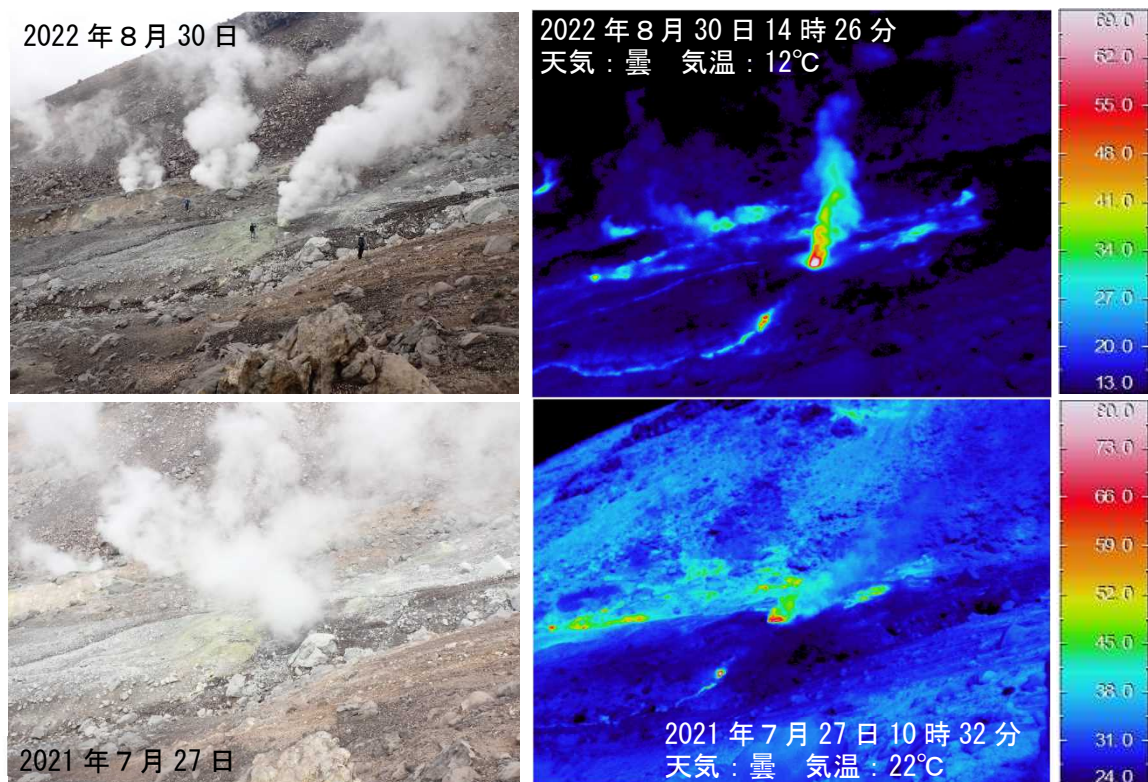


図6 大雪山 赤外熱映像装置による1～5噴気孔の地表面温度分布 南東側（図2の③）から撮影  
・前回の観測（2021年7月）と比べて、噴気の勢いに特段の変化は認められませんでした。噴気や日射の影響で地表面温度分布の見え方に違いがありますが、前回の観測と比べて特段の変化は認められませんでした。

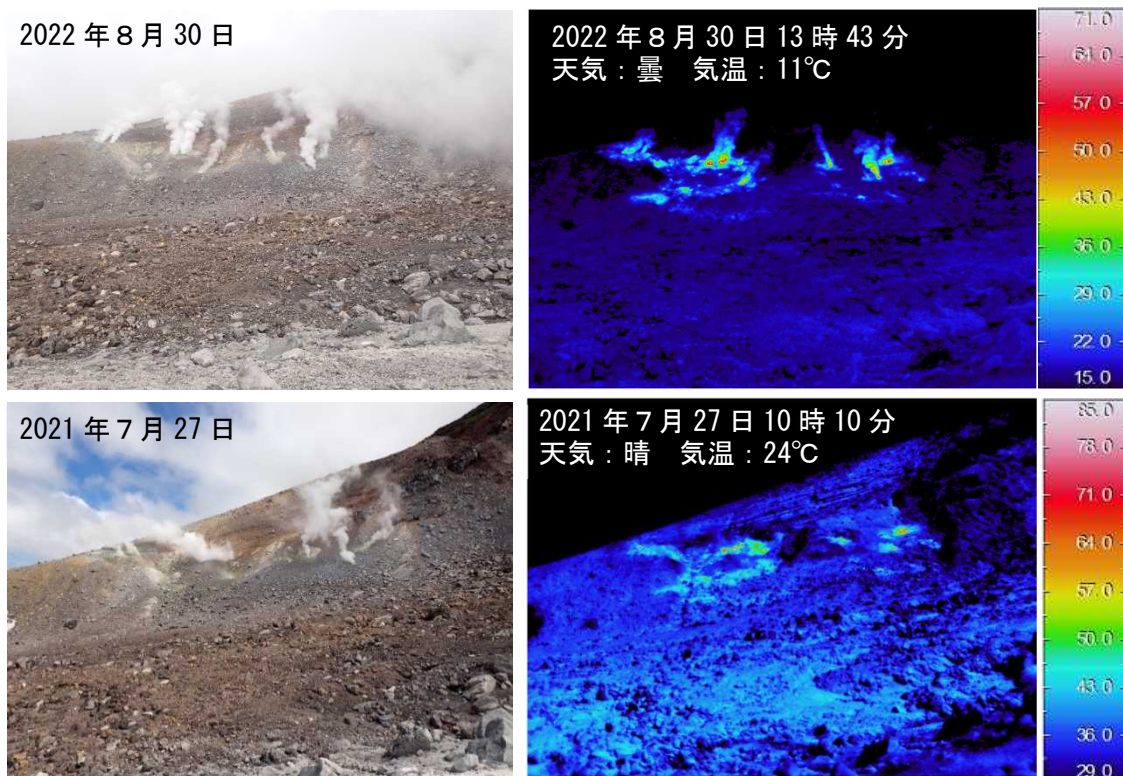


図7 大雪山 赤外熱映像装置による1～6～9噴気孔群の地表面温度分布 南西側（図2の④）から撮影  
・前回の観測（2021年7月）と比べて、噴気の勢いに特段の変化は認められませんでした。噴気や日射の影響で地表面温度分布の見え方に違いがありますが、前回の観測と比べて特段の変化は認められませんでした。



図8 大雪山 西側から見た旭岳の状況（忠別湖東監視カメラによる）  
ちゅうべつ こ ひがし

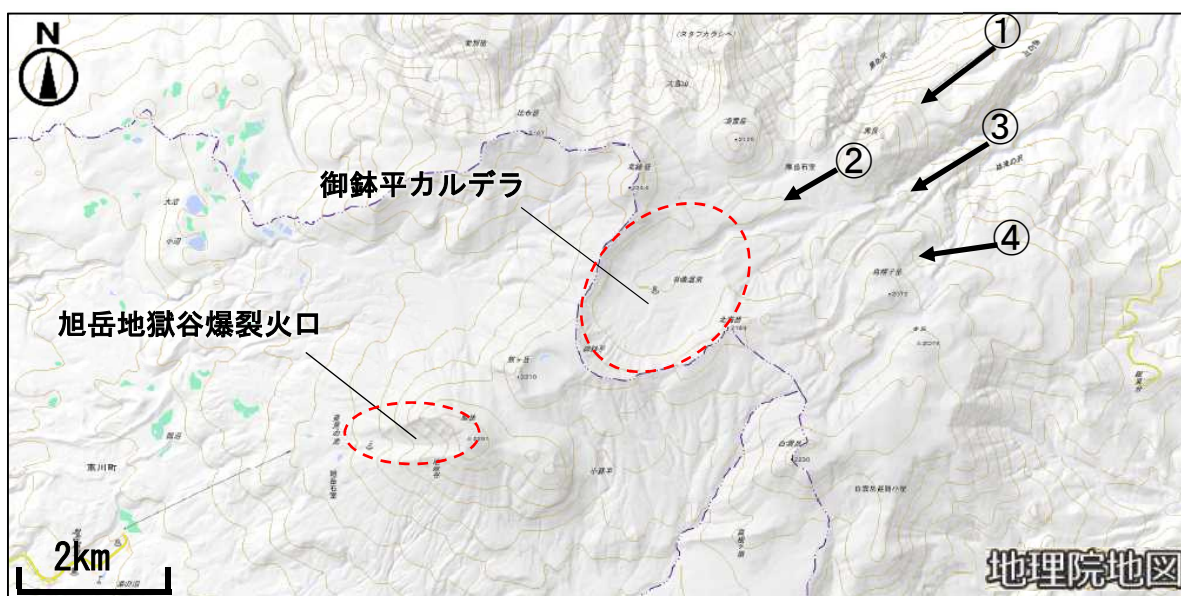


図9 大雪山 写真及び赤外熱映像の撮影方向（矢印）  
※御鉢平カルデラ及び旭岳爆裂火口を赤破線で囲んで示しています



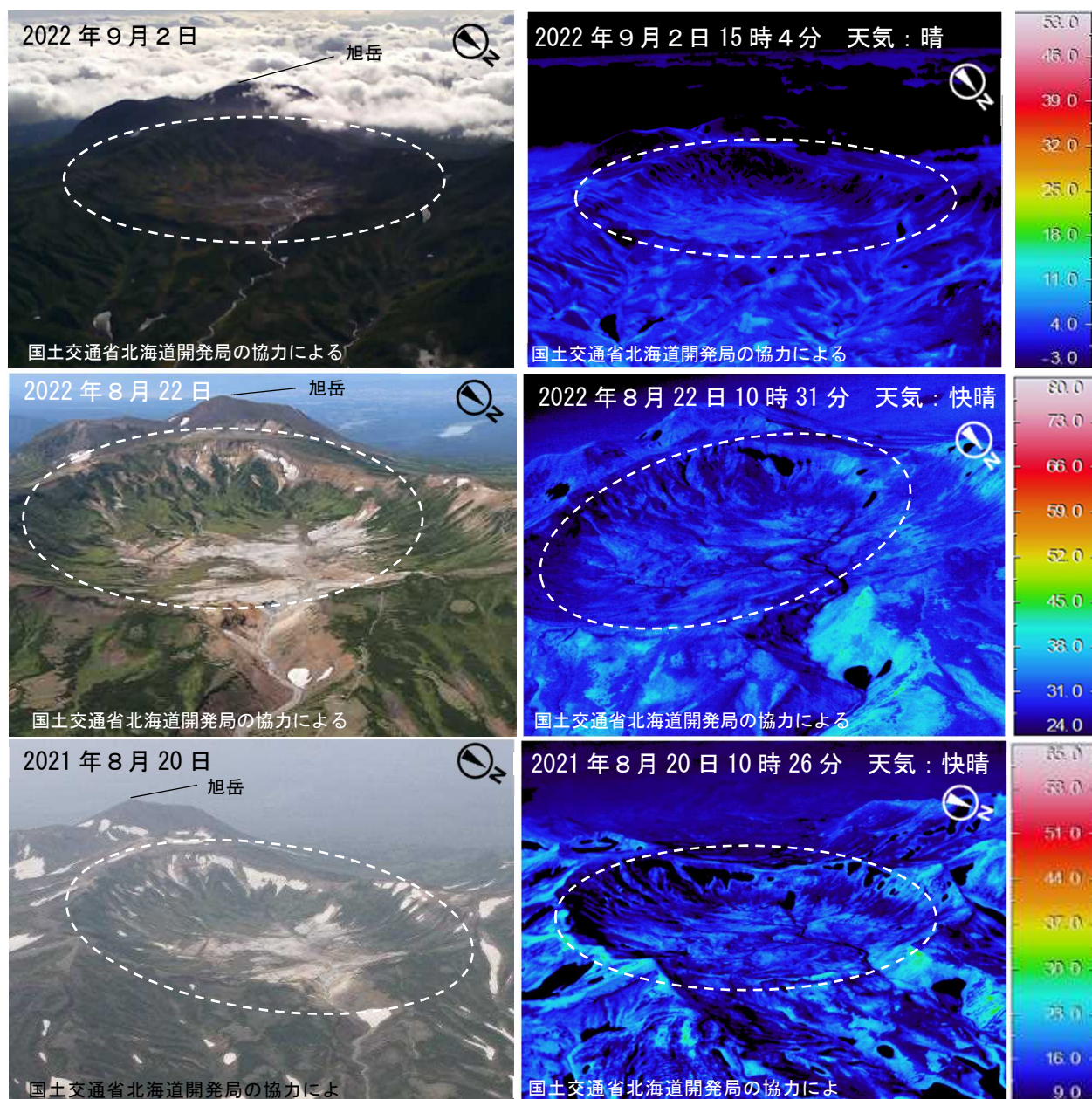


図10 大雪山 赤外熱映像観測装置による御鉢平カルデラの地表面温度分布

上段：北東側上空（図9の①）から撮影  
 中段：北東側上空（図9の②）から撮影  
 下段左：北東側上空（図9の③）から撮影  
 下段右：東側上空（図9の④）から撮影  
 ※御鉢平カルデラを白破線で囲んで示しています

- ・ 前回の観測（2022年8月）と同様に、御鉢平カルデラ内に噴気は認められず、地表面温度分布にも特段の変化はありませんでした。

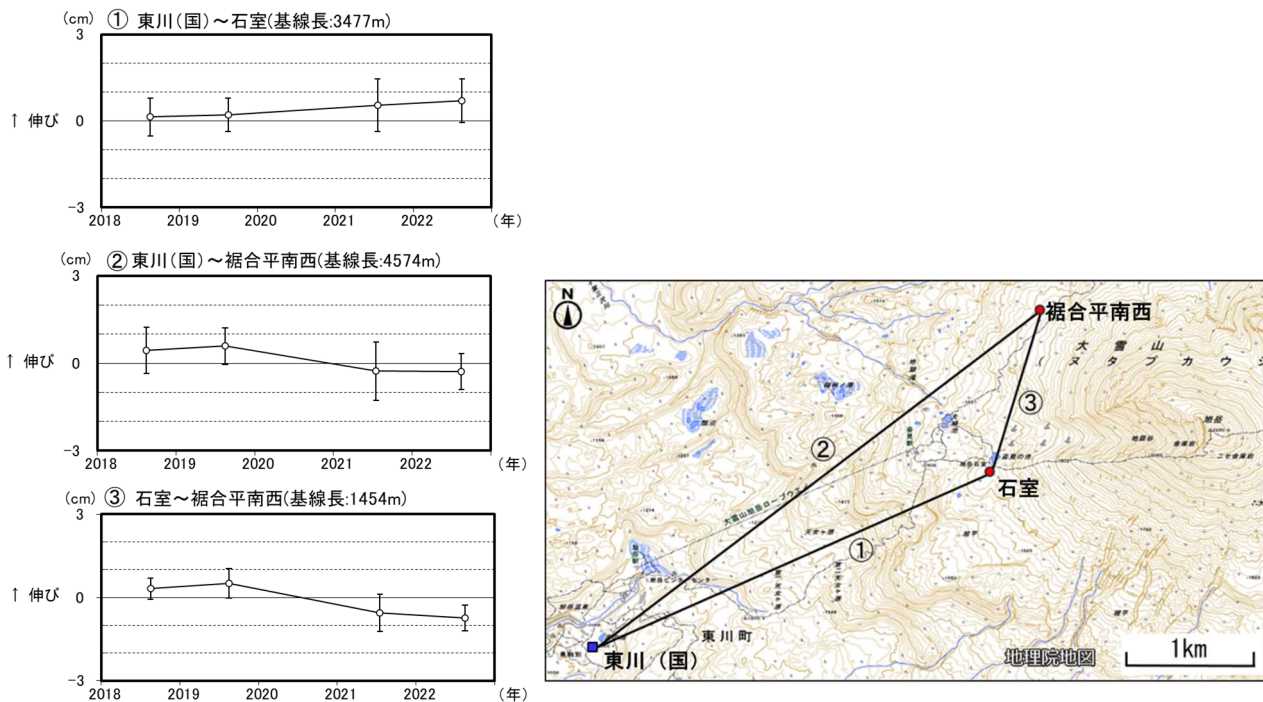


図11 大雪山 GNSS繰り返し観測による基線長変化及び観測点配置図（2018年8月～2022年9月）  
GNSS基線①～③は観測点配置図の①～③に対応しています。  
・前回の観測（2021年7月）と比べて、特段の変化は認められませんでした。

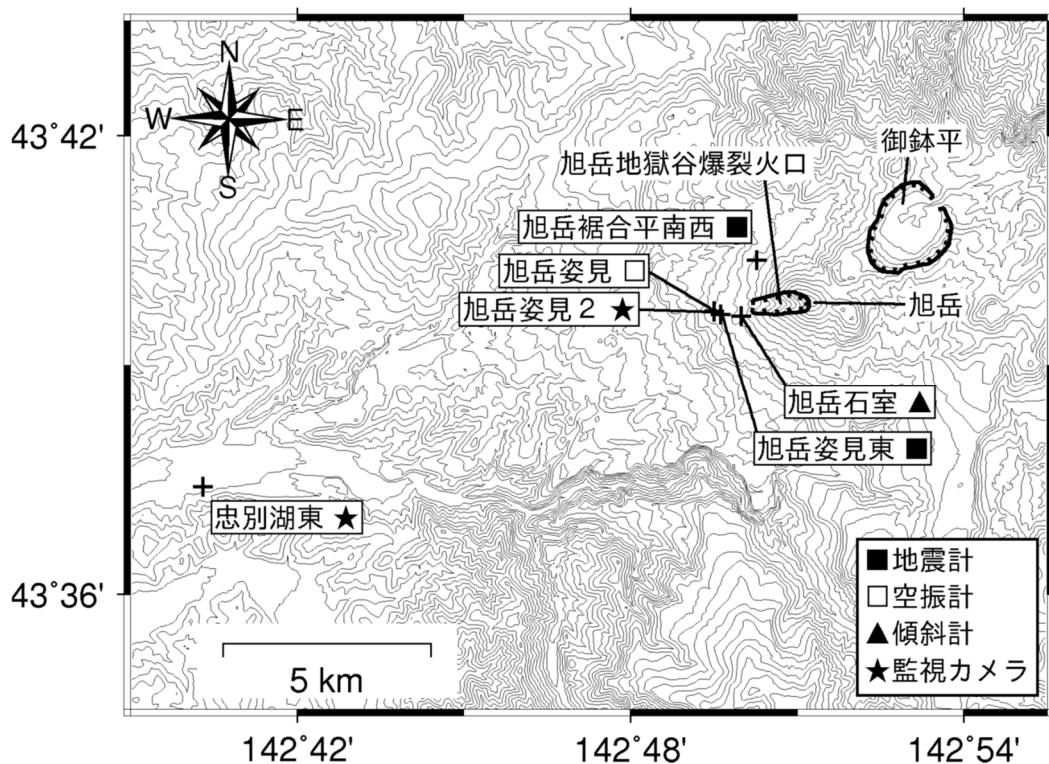


図 12 大雪山 観測点配置図